

# 社員の安全と健康が、企業の評価を上げる。 - 「安全衛生優良企業公表制度」の認定企業を訪ねて - (概要)

厚生労働省 政策統括官付政策評価官室 アフターサービス推進室

## 調査の背景（働く人の安全と健康の現状）

- ・労働災害による死亡者数は昭和30年代半ばの年間6,000人超から減少傾向にあるものの、なお年間1,000人近い方が亡くなっている。
- ・定期健康診断では何らかの指摘を受けている方が年々増し、近年は過半数を占めている。
- ・メンタルヘルス面では仕事や職業生活に強い不安、悩み、ストレスを感じているとした方が過半数いる状況が続いている。
- ・人口減少・高齢社会の到来に伴い、働く人の安全と健康を守る職場環境づくりが、企業にとっては持続性確保のための大きな課題となっている。

## 調査の概要

- ・厚生労働省では平成27(2015)年6月に「安全衛生優良企業公表制度」を創設し、働く人の安全や健康を守る取組で成果を上げた企業を認定し、厚生労働省のホームページで公表。（「認定マーク」右掲参照）
  - ・平成30(2018)年4月末現在、35社を認定。
  - ・本報告書は認定企業の現場での取組を調査し、働く人の安全や健康に関心をもつ国民並びに企業の担当者等に情報提供することを目的としている。
- 【調査先企業 5社】(株)みちのく銀行、宮崎工業(株)、アップコン(株)、パナソニックエコソリューションズ池田電機(株)(以下「PES池田」という。)、ニッポン高度紙工業(株)。



## 安全衛生優良企業「社員の安全と健康を守る」調査結果の紹介

### ■ 調査先企業における安全と健康に係わる課題解決型の取組事例

末尾( )内は、取組企業名。

#### 1 労働災害のデータ分析によるリスクアセスメントの推進

○危険作業の見える化(3H=初めて、変更、久しぶりに災害集中)によるゼロ災害の徹底(ニッポン高度紙工業)。

#### 2 安全パトロール(\*)のマンネリ化や形骸化の防止、緊張感の醸成

(\*)製造業等で行われる職場環境の巡回点検。

○親会社・グループ会社・他工場等の相互参加による第三者的な視点の導入(宮崎工業、ニッポン高度紙工業)。

○経営トップが災害懸念のある長期連続休日明けの製造現場を巡回して、引き締め(PES池田)。

○毎月の重点点検項目や安全標語を社内徹底して、メリハリある巡回を確保(宮崎工業)。

#### 3 社員等に対する危険体感教育による安全意識の喚起、現場発の安全改善提案の重視

○新入社員、新規パート等に危険体感訓練を義務付け、管理職にはゼロ災害継続の指導者教育(PES池田)。

○危険体感訓練のほか、実践的な危険箇所発見の研修を製造部門中心に実施(ニッポン高度紙工業)。

○安全改善提案(年間約100件)は可能な限り採用、毎月職場単位での安全フリーディスカッション実施(宮崎工業)。

#### 4 社員の健康増進サポートの推進(健康診断結果の自覚徹底、生活習慣病予防、運動不足解消等の対応)

○経営トップによる「健康経営宣言」のもと、地元大学と連携した健康支援リーダーの育成や県立病院と連携した独自の生活習慣改善プログラムを推進。健康意識の変革を促進(みちのく銀行)。

○全社員対象の健康学習、社内コミュニケーション手法研修/非言語コミュニケーション等(ニッポン高度紙工業)。

○フットサルなど各種スポーツ活動、禁煙、階段利用等に対して、会社がポイントを付与して推奨(アップコン)。

### ■ 優良企業認定に伴う企業側の効果

○経営者、社員の取組意識の一層向上により、安全衛生面の見える化や提案活発化等による一層の基盤整備。

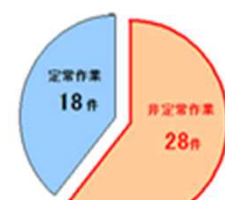
○認定マーク活用、新聞報道、講演会での積極的な情報発信等にてプレゼンス向上。人材採用でもアピール効果。

### ■ 調査先各社の取組

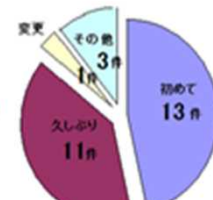
ニッポン高度紙工業/安全3H活動

事故・トラブルは3H【初めて・変更・久しぶり】の時に主に発生

【過去の労働災害発生状況】



【非常作業の内訳】



過去の労働災害の約60%が「非常作業」を占め、その殆どが3Hの時に発生。

PES池田/危険体感装置



宮崎工業/改善提案箱



みちのく銀行/生活習慣改善



アップコン/フットサル練習

